

平成17年度 一般財源研究費傾斜的研究費(全学分)研究報告書

研究テーマ [②教育改善研究]

研 究 課 題 名	首都大学東京のFDのシステム化と効率的推進のための基礎的研究	
研究者または研究代表者名	所属部局名	職 名
舩本 直文	基礎教育センター	准教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職 名
上野 淳	基礎教育センター	教授
西郡 仁朗	オープンユニバーシティ	教授
篠田 昌志	都市教養学部法学系	准教授
日高 千景	都市教養学部経営学系	教授
伊與田 正彦	都市教養学部理工学系	教授
竹宮 健司	都市科学研究科	准教授
篠田 雅人	都市環境学部	准教授
守屋 正	システムデザイン学部	教授
菊池 吉晃	健康福祉学部	教授
星 旦二	都市環境学部	教授
吉川 徹	都市環境学部	助教授
落合 守和	都市教養学部人文社会系	教授
研究実績の概要		
本研究の目的は、本学におけるファカルティ・ディベロプメント（FD）の組織的・効率的推進に向けたシステムを開発し、特に狭義の教育FD体制の整備をしていくことであった。そのために、FD委員会を中心に、FDの基礎的な資料を収集し、FDを試行することで教育の支援体制や広報体制を整えるための基礎的情報を収集しようとした。 FD委員会の4部会による活動、特に企画評価部による「学生の授業評価SE」「教員の授業評価TE」全学共通科目へのアンケート調査の実施、研修部による2回のFDセミナー、FD講演会の開催、大学教育学会等への研修参加、広報部によるFD事業の開催広報、FDレポート2刊の発行とWEB掲載など成果が十分に上がったといえる。研究・情報部の活動は学内FD情報の収集が中心であって他大学の先進的FD事例などの収集までは至らなかった。FDの事務局体制、SE・TEの処理体制には専属のスタッフと処理担当者が必要であるが、そのシステム整備までには至らなかった。 FD活動が大学の常識となりつつある情勢において、本学の基礎・教養プログラムを中心にFDに		

よる進化・発展の道を拓いたことの意義は大きいといえよう。また、マークカード方式によるS E・T Eの実施システムを整備できたことは、今後の部局F D活動の支援体制上でも意義が大きいといえる。その意味で、少なくとも他大学にひけをとらない態勢を築けたといえる。

予算は十分とはいえなかったが、適切に執行された。F DレポートおよびW E Bを魅力的にするために予算処置が必要であろう。この成果は、F Dレポートで全学に公開するとともに、基礎教育センターのF D委員会のW E B上でも公開した。この情報公開は「広島大学高等教育研究開発センター新着情報」でも提供されるよう手配済みである。平成18年6月の大学教育学会において研究成果の一部を研究代表者（舩本）と上野基礎教育センター長で報告する予定である。

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]

著者（講演者）	論文題目（発表題目）	発表誌（発表大会名）	年月
舩本直文・上野 淳	首都大学東京のFD：1. 全学共通科目に対する学生の評価	大学教育学会第28回大会	2006年6月 （予定）
上野 淳・舩本直文	首都大学東京のFD：2. 都市教養プログラムに対する学生の授業評価	大学教育学会第28回大会	2006年6月 （予定）
首都大学東京FD委員会	TMU FDレポート「クロスロード」	第1号創刊号	2005年12月
首都大学東京FD委員会	TMU FDレポート「クロスロード」	第2号	2006年1月
落合守和	都立大学から見た統合新大学—首都大学東京、教養教育の現状と課題—（『中京大学学報』第285号、2006年4月に概要掲載予定）	中京大学教養部将来計画委員会主催	2006年2月